

| 会 議 記 録 | | | |
|-----------|---|---------|-------------|
| 会 議 の 名 称 | 桂川・支川対策特別委員会 | 会議場所 | 第3委員会室 |
| | | 担当職員 | 池永 |
| 日 時 | 平成30年6月29日(金曜日) | 開 議 | 午後 2 時 00 分 |
| | | 閉 議 | 午後 2 時 55 分 |
| 出席委員 | ◎西口純生、奥野正三、竹田幸生、菱田光紀、馬場隆、藤本弘、(湊泰孝議長) (欠席 木曾副委員長) | | |
| 出席理事者 | 【まちづくり推進部】竹村部長、並河事業担当部長 [都市計画課]関口課長 [桂川・道路整備課]関課長、澤田広域事業担当課長、小西広域事業係長 | | |
| 出席事務局 | 片岡局長、鈴木議事調査係長、池永主任 | | |
| 傍聴者 | 市民0名 | 報道関係者0名 | 議員0名 |

会 議 の 概 要

14:00

1 開議 (西口委員長あいさつ)

<西口委員長>

本日、木曾副委員長から欠席届が出ているので、御承知おき願う。

(事務局日程説明)

[まちづくり推進部入室]

2 案件

- ・河川改修の状況と今年度の計画について

[まちづくり推進部長あいさつ]

[桂川・道路整備課広域事業担当課長より資料に基づき説明]

14:21

[質疑]

<西口委員長>

曾我谷川で土砂を浚渫したと言われているが、近所の人から取ったかどうかわからないという声を聞いた。市民は、水面より上部をとった程度という感覚である。本来、昔の川床はもっと下にあるのではないか。桂川本川の土砂を宇津根橋の上流で取ったのを見ても、堆積した状態で断面積の10パーセントと言われるが、下げていっている感覚はまったくないと考えるが、そのようなものなのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

曾我谷側の浚渫だが、京都府の計画においては、希少生物であるアユモドキが住んでいることもあり、アドバイザー会議にかけ、今流れているところは土砂が溜まっていなためできるだけ乱さず、流れているところから50センチ残して、たまっ

ている土砂を撤去されたようである。土砂撤去の高さについては、上下流に帯工があり、帯工の天板の高さを結んだ線で撤去を行ったと聞いている。目に見えて撤去された部分は少ないように見受けられるが、帯工から帯工の高さを結んだ線を取られたということで、京都府はそれが計画河床と認識していると聞いている。

<西口委員長>

住民は川床を昔のイメージで見ており、取っていないのと同じではないかという声があちこちで聞こえる。堤防の溢水について、増水した時に本当にそれで機能を果たすのかと心配されている。そうすると、じゃこの命と人の命どちらが大事かという話になってくる。もう少し考えて下げてほしいというイメージを皆は持っている。

<湊議長>

今言われた帯工は、どのあたりにどのくらいの間隔であるのか。小まめにあるのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

数はわからないが、高さは各箇所帯工を結んだものである。

<湊議長>

それだと上しか取れない。それが天板にある以上は、それより下をとっても泥が溜まるだけである。曾我谷川に帯工があるのは知らなかった。

<西口委員長>

豪雨で降水が一気に出たときに、掘り下げることによって貯水能力を確保できる。堆積していたら、その上で溜まるしかないから、水位がどんどん上がるという危険性は素人でもわかる。アユモドキのほうが大事だというような感覚でおられたら、人の命にかかわる問題である。さらに掘削してもアユモドキが生息できるような環境についての知識を専門家は持っていないのか。今までも、専門家がだめだと言ったものを我々地元の間が実践で覆してきた。湧水についても3面張りのコンクリートの中にいたとか、この草でなければだめだと言われていたが、岡山の先生に聞いたなら自然生えの草でよいとか、すべてが嘘ばかりで、地元としてはだまされてばかりいる。本当に専門家を信頼していいのか、我々は不信感を持っている。人の命とじゃこの命とを考えたら、もちろん生命・財産を守るべきであり、貯水能力を高めるために、深く掘って撤去してもらえようような交渉が必要になってくるのではないか。桂川・支川対策特別委員会から要望できるなら要望したいと考える。

<湊議長>

先日、南丹土木事務所長に、あのような取り方ではだめであり、もっと取ってほしいと言ったところ、今回やって影響がなかったことが判明したという話だった。今回恐る恐るやってみたが、下流のアユモドキに影響が出なかったから、それなら来年からはもっと掘り下げても大丈夫だという認識であった。どんどん言っていけばよいと考える。

<西口委員長>

亀岡は実験場に使われているような感じである。それはよいが、じゃこの世界はじゃこが一番よく知っている。3面張りのコンクリート水路でも生き延びて、3月には見つかっているのであり、深く掘り下げても生き延びる術は知っているのではないか。治水対策の考え方で進めてもらわないと、我々の立場もある。

<馬場委員>

9ページの可動式パラペットについて、「出水時には天端面を立ち上げ、必要な高さを確保」とあるが、これほど重いものをどうやって立ち上げるのか。強度に問題はないのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

具体的な構造や、上がった場合の強度関係については検討中だと考える。当然強度を確保せねばならないということは国も考えている。ただ、機械式になるか油圧になるか等はまだ聞いていない。

<馬場委員>

素人が考えても、1メートルの高さで幅があり、水圧は膨大になると考える。技術的に大丈夫なのか。検討すれば可能だという理解でよいか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

その点も含めて検討されていると考える。

<西口委員長>

人力では到底不可能であり、油圧式で、機械的に上げるということである。50センチ上げて、50センチの背もたれを立ち上げるという説明を受けている。

<馬場委員>

12ページで、今回土砂浚渫済箇所が4700立方メートルとのことである。私も保津川団地に住んでいて子どもをよく遊ばせたことがあるが、記憶ではこれほど断面は上がっていなかった。4700立方メートルというと、70メートル×70メートル×1メートルほどの浚渫であり、本当にこの程度で済むのかというのが率直な思いである。以前月読橋を通ったら、上流は農地化している状況であり、草も生え、流木は大木になっており、このような河川の管理でよいのかと感じている。もっと掘るように言えないのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

4700立方メートルは多いと思ったが、現場を見てみると私もこの程度かと思った。昨年度はドローンで堆積土砂の状況調査もされている。今後も堆積土砂の撤去は京都府に要望していく。桂川改修促進期成同盟でも、今年度の事業計画の中で要望していくことになっている。

<馬場委員>

13ページ千々川の関係で、地元が心配しているのは、JRの安全と橋梁・橋脚の断面が合わないのではないかとということである。河川の流下能力を考えると、鉄橋とぶつかるような形状になるのではないかとという疑問がある。流量について、きちんとJRと協議しているのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

JRの渡河している部分だと思うが、当然河川計画断面をクリアした構造で実施されている。そこは改良済みとなっているため、心配はないと判断している。

<馬場委員>

17ページの七谷川の関係で、幅9.8メートル、深さ1メートルほどで低水路を設置することになっているが、その程度で済むのか。考え方の基準は。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

この低水路の計画については、上流に七谷川天井川区間があるが、まず1日も早く天井川を解消するという事で取組まれている。それによって七谷川天井川区間は10分の1の治水安全度となるが、この低水路の3.6キロ区間を10分の1の安全度にしようとする、まだ横にブロックの護岸を積みねばならない。それには相当な時間がかかるため、上流で天井川区間を解消する工事をしてから、下流に影響を与えないようにまた1メートル埋め戻しをして上下流のバランスをとるとされている。そのバランスを保つために下流を1メートルだけ掘削するものである。最終的には下流からブロックを積んで10分の1の整備を行っていくと聞いているが、1日も早く天井川の区間を解消するため、下流は上流に見合った断面で

低低水路を設置するということである。

<馬場委員>

ということは10分の1確率で、基本的には河原林町で出水しなくなると理解すればよいのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

天井川が解消され宅地より河床が低くなるため、出水が出ることはない。現在でも、河床張りをしてもらった関係があり、だいぶ出水はましになっている。今度も3面張りにされるため、より一層大丈夫だと考える。

<藤本委員>

14ページ雑水川の①、北町橋から下流について、鉄板で蓋をしており橋の状態になっているが、これはこのまま橋のような形にするのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

この鉄板は土橋を架けるための仮設の鉄板である。風呂屋の燃料等を府道側から搬入する必要があり、風呂屋の駐車場も一時なくなるということがあったため、仮設で鉄板をかけている。土橋が今年度完成すれば撤去することとしている。

<藤本委員>

写真①のところで3川が合流し、ここが全部溢れるので、ここの川床を下げないと、土橋をかけても溢れてしまう。この辺りは引続き川床を下げる工事に入ってもらえるのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

ここはどうしても、緑橋の下流の疎通能力がまだ少ないということがあり、暫定計画の整理になっている。河床の幅は広がるが、高さは現在より若干下がる程度である。ここはよく土砂等がたまる所であり、その分は浚渫を行って治水安全度の向上が図れるよう府に要望していきたい。

<藤本委員>

ここが最もネックになっているところである。ここから京都銀行の横を通って、14ページ上の地図の南郷池の整備計画の飲み込み口に行く。ここの土砂の浚渫もしていたが、業者が少ししか土砂を取らなかった。なぜもっと深く掘らないのか。南郷池自体が遊水機能を持っているが、南郷池の歩道まで水が溢れてくるのは、結局飲み込みが弱いのと、掃き出しがスムーズにいておらず、遊水機能を果たしていないということである。もっと池を深く掘って遊水機能を果たすべきだという話をしたが、業者は、府からそれほどお金をもらっておらず、上の数十センチしか取りようがないとのことである。もっと深く掘らないといけないのは分かるが、それだけの予算をもらっていないとのことである。今度、府の補正予算で保津川改修に5億円程度ついていたと思うが、もっと強烈に言って予算獲得していかないと、いつまでたっても進まない。言い方が弱いのではないか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

この箇所については再三地元からも要望を受けており、府民公募型整備事業の市町村提案型でも、亀岡市から何回も撤去を要望している。それにより少しずつは取ってくれているが、あまり見えてこない状況である。昨年度も菱田委員から、ここはもっと取らねばならないと聞いており、もっと予算を確保して取っていただくよう市から要望していきたい。

<菱田委員>

南郷池の下流、雑水川沿いの春日橋の改修について、もう少し詳しく経過と今後のスケジュールを教えていただきたい。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

現在、春日橋の実施設計は完了している。今京都府は迂回路をどこにつけるか検討しており、今の計画では下流側、コンビニ側に迂回させると聞いている。それに伴って、水道・下水道・NTT関連等4つほどの占用物件があるが、それをどこによけるか、関係機関が集まって検討されているところである。その検討に今年1年いっぴいかかると考えている。それと合わせて、まだ個人には言えていないが、仮設道路をつけることにより、今までかからなかった家がかかってくる計画になるため、その用地交渉や物件の調査・算定もしなければならないと聞いている。

<菱田委員>

要は、春日橋をしてもらわないと春日小橋ができず、春日小橋をしてもらわないと亀岡園部線の改修ができないという三段構えである。迂回路の検討と言われてから3年以上かかっており、京都府は何をしているのかと言いたいところである。次に河川の浚渫について、曾我谷川の帯工の高さまで取ったということだが、掘り下げてもらおうと、そこが埋まるまではそこから下流に土砂が流れないことになる。これは砂防堰堤と同じである。そうすると本川の桂川が守られる。要は支川の土砂対策をどうするかが大事である。これについて、京都府が全般に関して検討されていることや、亀岡市が行っている要望はあるのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

浚渫については、事あるごとに要望している。曾我谷川は希少生物等いろいろあって平成26年から手つかずの状態であった。府民公募型整備事業の市町村提案型で亀岡市も提案し、取るということになったが全然取ってもらえず、ようやく昨年度に了解をいただいたということで取っていただくことになった。やはり浚渫は一番治水安全度が早期に図られることもあり、我々も期成同盟と連携して要望していきたいと思っている。

<湊議長>

堆積土砂について、今回宇津根橋の上流をわずかに取っていただき、その土砂を国道372号の天引峠のところに持って行ったということである。近所の人に聞くと、もっと土を入れないとまだまだ道路ができないとのことである。土砂を持って行くところがこれから問題になってくると考える。取ってほしいと言っても、土砂を持って行くところがなければならないと思うが、そのあたり、京都府はどうなのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

これだけ残土が出る、これだけ残土をほしいという調査が毎年度あり、それによって公共残土の使い道が把握できる。議長が言われたように、今のところはそこにまだ入るから問題はない。そこが満杯になったら探さねばならないが、公共残土の調査があるので、そちらでカバーしていきたいと考えている。

<湊議長>

そのようなことは気にせず、取ってほしいと言っていけばよいということか。

<まちづくり推進部事業担当部長>

公共工事間で土が出る場所と要する場所を調整しているので、多く受入れられる場所があれば出せることになる。典型的なところでは、駅北は多くの盛り土が必要だったため、桂川でそれだけ取れたということで、両方の事業がうまく進捗した。取ってほしいということであれば、どこかに受入れる工事があればより進むことになると思う。持っていくところは、課題としてはある。

<菱田委員>

以前議会でも提案したが、採石業者に取ってもらい民間で流通させてもらうことに

よって、税金をつぎ込んで土砂を取らなくても、商売で土砂を取ってもらえる。そのあたりを再考していかねばならないと思うが、亀岡市としてはどうか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

一般質問でも出ており、副知事に会われて議会から要望もされている。そのようなこともあり、今、京都府の中で研究されている。

<藤本委員>

土砂の浚渫を要望し、京都府が取ってくれなくても、取ってくれるまで待つしかない。亀岡市が取って府に請求するようなことはできない。取ってくれるまで頼むことしかできないから前に進まない。府が動いて予算をつけてくれないと市は何もできない状況になっている。積極的に、厳しく言ってもらいたい。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

厳しく言っていきたい。

<西口委員長>

質疑は以上とする。この後、引続き現地視察を行う。

[まちづくり推進部退室]

3 その他

<西口委員長>

嵐山地区のパラペット完成後、霞堤をかさ上げするにあたり、次回の委員会では、現地視察として霞堤を見に行ってはどうかと考えている。これからの準備も含め、霞堤のかさ上げがスムーズに進められるように現状を把握しておきたいと考える。意見は。

<竹田委員>

霞堤を見るのであれば、全ての霞堤を確認したい。

<西口委員長>

全ての霞堤を確認したい。2回に分けて行かねばならないかもしれないが、特別委員会としては、それぞれの霞堤の課題も含めて、しっかり把握しておきたいと考える。日程等については正副委員長に一任願う。(了)

～14:55